

2019年度 宮崎銀行ふるさと振興助成事業

鹿児島県の4企業に助成

株式会社宮崎銀行は、2012年度の創立80周年記念事業を機に、鹿児島県におきまして地域産業の開発と振興を目的として、優れた取り組みを行っている各分野の事業者等を顕彰・助成してきました。2014年度からは、一般財団法人みやぎん経済研究所(理事長・平野 亘也)が鹿児島県の助成事業を引き継ぎ、行っています。本年度は以下の4企業を助成先として決定しましたのでご紹介します。

産業開発部門

出水市高尾野町下水流759-2

株式会社NEWM(ニューム)

代表取締役 前田 亘

高度な選別作業による新たな廃プラスチックのリサイクル体制の確立



2007年に熊本県で創業。09年に法人化し、11年8月に出水市に本社移転するとともに工場を建設した。「販売を手掛けていた他社製の再生プラスチックの品質が悪く、自社で高品質のものを作ろう」(前田社長)と、廃プラスチックの回収・再生加工・販売の一貫体制を構築した。社名は「地球環境を考え、世界で必要とされるメーカーに」という思いを託した英単語の頭文字を組み合わせている。

国内のプラスチックメーカーから排出される端材などの廃プラスチックを回収。直径約5ミリの粒状ペレットに再加工し、原料として国内だけでなく、海外のメーカーへも直接販売している。高品質ペレットの生産は異物の除去など手間とコストがかかるが、これらを自動化した装置を自社開発し、18年に特許を取得。生産性の2割アップを実現した。

「今後、廃プラスチックは海外輸出ではなく、国内でリサイクルする流れが強まる」と前田社長。現在の年間7,200トン体制を、3年以内に12,000トンに拡充するほか、自社原料100%のロープや除草シートなどリサイクル品の製造・販売にも乗り出す。

地方創生部門

霧島市国分中央4-18-2

有限会社岩切美巧堂

代表取締役 岩切 薫

現代錫器「SATSUMA茶筒」の製作による伝承への取組



鹿児島県指定伝統的工芸品「薩摩錫器」は、昭和初期には県内10数軒の業者が手掛けていたが、現在は2軒のみ。1916年創業の岩切美巧堂は、5代目になる岩切社長を含む職人7人で、機能性とデザイン性に優れた薩摩錫器の継承・発展に取り組んでいる。

錫器は保冷や保温性に優れ、抗菌作用、イオン効果などで水を浄化してくれる特長があり、最近はビールや焼酎などの味がまろやかになると、タンブラーの需要が増加している。昨年のかごしまの新特産品コンクールで入賞した「SATSUMA茶筒」は、1000分の1ミリのすき間を作る熟練の削り技術で、スムーズな開閉と高度な密閉性を実現。また、漆を使った色付けなどにも取り組んでいる。

創業100周年を記念して2016年には、「薩摩錫器工芸館」が完成。世界で一枚しかないオリジナルの錫皿を製作体験できるコーナーも開設した。岩切社長は「薩摩錫器に興味を持ってもらい、知名度向上と若い職人の確保・育成に力を入れるとともに、伝統をベースに幅広い年齢層に支持される製品づくりにチャレンジし続けたい」と語る。

地方創生部門

日置市東市来町養母3564

株式会社カゴシマ農園

代表取締役 新保 哲志

農地集積による大規模トマト生産



始良市蒲生町で農業を営み、霧島市で「黒さつま鶏」の養鶏業も手掛ける新保社長が、新たにトマト栽培を開始した。2015年、日置市吹上町で立ち上げ、会社設立は17年12月。その後、過疎・高齢化で遊休化が懸念されていた東市来町養母地区の水田を集約した1ヘクタールにハウス10棟を建設し、18年8月から苗の植え付けを始めた。

ハウスは、トマトの生育に最適な二酸化炭素濃度、温度、湿度をコンピューターで自動制御し、茎の丈を高くして光合成を最大化することなどで、反収20%アップを実現。19年は栽培面積123アール、生産量270トンと県内最大級になり、20年は330トンが目標。21年は新たに300アールのハウスを整備し、総量830トンを見込む。

苗は「王様トマト」という品種。果肉がしっかりしているため赤く熟した段階で収穫でき、リコピンなどの栄養分やうま味成分が多く含まれている。新保社長は「地元の行政や住民の皆さんの協力で規模拡大できた。ジュースやピューレなど加工品も今年の夏ごろには商品化したい」と新たな事業計画を進めている。

地方創生部門

鹿児島市易居町1-2、鹿児島市役所みなと大通り別館6階、ソーホーかごしま11号室

株式会社Climbest(クラインベスト)

代表取締役 脇野 真梨江

外国人目線の翻訳によるインバウンド対応



20代のころ約7年間を中国、アメリカ、オーストラリアで暮らした経験を持つ脇野社長が起業した。会社設立は2015年。顧客は、メニューやパンフレット、ホームページなどを多言語化したい飲食店や、観光・医療などの各種施設、自治体など。最近訪日客の増加に伴うインバウンドに加え、海外展開を目指す企業の商品案内など、アウトバウンド対応が増加している。

翻訳に当たる登録者は46人。英、仏、スペイン、イタリア、中国、韓国、ベトナム、タイ、インドネシア、アラビアの10カ国語に対応している。登録者は鹿児島に住むネイティブの外国人。母国の文化や感性を身に付けている人たちが、鹿児島の文化を理解した上で翻訳する。さらにもう一人の確認者を加えることで、おかしな外国語や日本語の表記を防いでいる。

「外国人目線の翻訳、買ってもらいやすい翻訳を通して地元へ貢献するとともに、訪日観光客や外国人労働者が増えている中、日本人と外国人が心の壁を低くして笑顔で話せる地域づくりに貢献したい」と脇野社長。

一般財団法人 みやぎん経済研究所

宮崎市橘通東1丁目7番4号(第一宮銀ビル別館)

TEL:0985-20-5180

URL <http://www.mkk.or.jp>